

virtual.MEDICA + virtual.COMPAMED 2020

ファイナルレポート



**初のバーチャル展、virtual.MEDICA + virtual.COMPAMED は、参加者の高い国際性を得て開催
コロナ禍でのヘルスケアビジネス活性化に努め、2021年のデュッセルドルフでの再会に強い期待も**

世界最大の医療機器見本市である MEDICA と、医療機器製造業界のサプライヤーにとって No.1 プラットフォームである COMPAMED は、両展の歴史上初めて、完全にオンラインとして 2020 年 11 月 16 日から 19 日まで開催された。コロナ禍での開催となった [virtual.MEDICA](#)、[virtual.COMPAMED](#) は、初の試みとなるバーチャル展であったが、引き続き参加者の高い国際性を得て開催され、医療産業関係者へのビジネス機会提供に努めた。出展登録期間も非常に短かかったにもかかわらず、63 カ国から合計 1,500 を超える出展者が参加（日本 87 社）し、Online Showroom にて、18,300 を超える多種多様でイ



ノベータティブな製品を展示した。また、ウェブ・セミナーでは 100 を超えるヘルスケア関連のプログラムがライブで配信され、ピーク時には 300 人の参加者を数えたセミナーもあり、高い関心が示された。169 カ国からの 45,000 人を超える業界専門ビジター（ユニークユーザー）が両バーチャル展に参加し、ページ・インプレッションは 405,000 となった。両展への海外からのオンライン・ビジターは 78% を記録した。

「これらの数字は MEDICA と COMPAMED が持つ卓越した国際的地位を裏付けています。両展はパンデミックとの闘いを強いられているヘルスケアビジネス業界への活性化に寄与すべく、専門家プログラムでの多種多様なテーマや、出展者皆さんによる膨大なラインナップでの出展製品イノベーションが提供されました。渡航制限がある中、クロス・カンントリー・ネットワーキングが強化され、オンライン商談の価値も同様に重要視される機会となりました。そして、私どもは皆、2021 年に、ここデュッセルドルフで再びお会いできることを楽しみにしています」とメッセ・デュッセルドルフの新 CEO である W.ディーナーは初開催となった 2 つのバーチャル展を評価した。

多数のエキサイティングなイノベーション

両展イベントの [Conference Area](#) では 430 名のスピーカーと 360 のプログラムで構成される広範囲のコンテンツが提供され、その中でも臨床検査とケアプロセスのデジタル化は、感染予防とその対策において特に注目された。新型コロナウイルスに対する免疫テストに関する最新情報を発表した[ヘンドリック・](#)

[ストリーク博士](#)は、多くのトップスピーカーの1人となった。

第12回 Healthcare Innovation World Cup (HWC) と第9回 MEDICA Start-up COMPETITION は、ヘルスアプリ、インターネット上での診断、ヘルスケアセクター向けのロボット工学およびAIなどのピッチプレゼンテーションが行われ、オンライン上で多数のデジタルヘルスケアトレンドが提供された。そして第12回 HWC の優勝者は甲乙つけがたく、inContAlert (ドイツ/膀胱充満時の非侵襲測定)、BeFC (フランス/低消費電力の医療機器向け持続可能な紙ベースのエネルギー源)、PKvitality (フランス/スマートウォッチによる血糖測定) の3者となった。Start-up COMPETITION の優勝者は、関節炎を自動的に検出する放射線検査をAIベースで開発したデンマークの Radiobotics であった。

ロボティクスは医療部門でマルチスキルの支援を提供

Online Showroom などにて出展者とその製品情報をご覧いただく [Exhibition Space](#) では18,300を超える製品やサービスが紹介され、新製品などの開拓機会が減少したバイヤー、ディストリビューターの注目を集めた。ハイライトには、ロボティクスと自動化の専門メーカーKUKA が主催する KUKA Innovation Award 2020 の受賞者発表もあった。同イベントに参加の研究、開発者チームらは、軽量ロボットコンポーネント LBRMed を取り込んでの独自の医療機器開発を競った。優勝者はイタリアの Scuola Superiore Sant'Anna 大学の [HIFUSK チーム](#) で、その開発技術は超音波手術用ロボットアプリケーションであった。同技術のコンセプトは非侵襲的治療法で、例えば傷跡を残さない切除法は、癌治療など根本的に変える可能性を秘めていることが評価された。

変化を求められる業界 -これに応えるビジネス・プラットフォーム-

このような事例は医療機器製造業界が研究や開発機関と協力し、イノベーションを駆使して、困難な状況を打破すべく、正面から取り組むことを示している。コロナ禍により、業界がどのように変わっていくのか、また、グローバルに機能するバーチャルプラットフォームが、今後、ビジネスに寄与するために、どのような改良が必要なのかなど、最新のトレンドレポート「[Wie SARS-CoV-2 die Medizintechnikbranche verändert](#) (新型コロナウイルスが医療技術分野をどのように変えたか)」によって発表。同レポートは、virtual.MEDICA 2020 において、ドイツ医療機器産業協会 SPECTARIS と医療技術クラスターMedicalMountains によって共同発行された。現在のビジネス状況と危機による売上高の減少には関係なく、マーケット、および中長期的な競争の観点から同業界は激変するであろうと専門家は予想している。「今回の危機は不可逆的な一連の出来事を引き起こしました。テレワークのモデルやセールス、サービス、展示会のコンセプトなどは、現在、多くの企業戦略において重要な位置を占めており、コロナパンデミック後も、少なくとも現状のワークスタイルや顧客とのコンタクト方法が優先され続けるでしょう」と SPECTARIS のエグゼクティブ・ディレクターであるマイヤーはコメント。

同じく virtual.MEDICA に関し、マイヤーは次のようにコメントしている。「経済活動と新規顧客の獲得はコロナ禍によって停滞し、より困難になっています。そのため医療機器製造業界にとって、少なくとも MEDICA で出会うことはさらに重要でした。メッセ・デュッセルドルフは、コロナ禍で見本市の開催が困難な状況下、多くのフォーラムやコンファレンスの形で知識や情報交換する場として、緊急にバーチ

ャル展へ変更し、提供しました。また、コロナ禍であっても、見本市が業界のセールスとマーケティングのための重要な推進機能であることが明らかになりました。 virtual.MEDICA は、この面でパイオニアでした。リアル展が再び可能になる今後において、ハイブリッド展を見据えるとバーチャル展の機能は確実に必要であると考えます」

コロナ禍で奮闘するマイクロテクノロジー

コロナ禍でのソリューションとなり得るイノベーションは、医療機器製造のサプライヤー市場向け見本市 virtual.COMPAMED（出展 215 社）において注目の的であった。ここではマイクロテクノロジー関連の多くの企業が出展し、同展の後援団体である [IVAM マイクロテクノロジー協会](#)（ドイツ）がパビリオンも設置した。IVAM は Conference Area にて、リアル展でも開催している [High-Tech Forum](#) を開催し、会期初日には福島県出展者のプレゼンテーションも行われた。virtual.COMPAMED では、診断での信頼性、経済性が高いマイクロ流体力学の最新技術がコアテクノロジーとして注目された。同展の出展者は、使い捨てマイクロ流体システムの受託生産や、完全自動化されたサンプル準備や分子診断システムの開発製造に関する幅広いサービスを提供した。

IVAM の事務局長、ディートリッヒ博士も早くも来年への期待を表明している。「コロナ禍において、より多くのオンライン・コンファレンスなどを実施することは非常に賢明だと思います。しかし、見本市やコンファレンスで直接会うことは、信頼の上に築かれた長期的なビジネス関係を築くために不可欠であり、これは非常に重要なものです。これがデュッセルドルフでの COMPAMED 2021 で皆様と直接お会いできることをすでに楽しみにしている理由です」

JETRO、福島県、信州大のグループ出展や CASIO を含む 87 の日本企業がバーチャル展に出展

日本企業の両バーチャル展への出展者は、短い出展申込期間にもかかわらず 87 社が出展参加し、国数では上位 5 番目となった（MEDICA 54 社,COMPAMED 33 社）。そのうちグループ出展として、JETRO が COMPAMED を含め 59 の日本企業の出展サポートをし、福島県、信州大学が例年通り、関係企業の出展をサポートした。単独出展としてはカシオ計算機が皮膚科医向けデジタルカメラにて初出展した。初のバーチャル展開催であったため、難しい点もあったが、成果に届く日本出展者もあった。以下、グループ主催者を含む日本出展者のコメント。

- * 「システムの不安定さ、わかりにくさが、出品活動に大きな影響を与えたと思われる」（[JETRO](#)）
- * 「virtual.COMPAMED の使い勝手が著しく悪かった。時差も影響したのか、残念ながら出展企業の事前準備は奏功せず、出展料に見合う手ごたえ、商談成果は得られなかった。次回はリアル出展最優先で検討している」（[福島県](#)）
- * 「リアル出展が無くなってしまったのは残念だったが、弊社の商品に関心を寄せる各国の代理店候補よりアプローチがあり、活発な商談を実施することができた。有力国の代理店候補も見つけることができた。」（[カシオ計算機](#)）
- * 「コロナの影響で各展示会がキャンセルとなっている中、バーチャル出展を設けて頂けたことで製品 PR の機会を得られて大変良かった。virtual.MEDICA を見たベルギーのディストリビューターより

当社 EU 担当者にメールにてコンタクトがあり、早速現地に出向いて商談をすることが出来た」([エアサポート](#))

- * 「今回はオンライン展示会でしたが継続出展したおかげで成約しました。継続が重要だと思いますので引き続き出展していきたいと思います」([アイ・メデックス](#))
- * 「virtual booth がパッケージになっていて作りやすかった。全体的に進化している Virtual イベントだと感じた。出展を通じてのビジネス成果も少しあった」([JVC ケンウッド](#))
- * 「今回のオンラインでの対応は当社としても初の試みでした。マッチメイキング機能は大変有り難かったです。商談時間が 30 分に限られ少し短く感じました」([協和精工](#))

バーチャル展の一部機能は 2021 年 5 月末まで有効／2021 年はハイブリッド展として開催予定

virtual.MEDICA および virtual.COMPAMED の [Conference Area](#) でのプログラムの大部分は、2021 年 5 月末までオンラインで引き続き閲覧可能である（要登録）。同様に出品者の Online Showroom も [出展者検索機能](#) を使用し閲覧、出品者コンタクトも可能であり、[Networking Plaza](#) のマッチングサイトも引き続きチャット機能は利用可能（要登録）で、全て 2021 年 5 月末までの期間となる。

MEDICA 2021 と COMPAMED 2021 は、ハイブリッド展（リアル展＋バーチャル展）として 2021 年 11 月 15 日から 18 日まで開催予定。ハイブリッド展コンセプトは、デュッセルドルフのメッセ会場での、専門ビジターをお迎えしての開催、そしてデジタルオファーを組み合わせた複合構成での開催となる。

両展の情報は以下のウェブサイトからもご覧いただけます。

公式サイト <http://www.medica-tradefair.com> <http://www.compamed-tradefair.com>

日本語サイト <http://medica.messe-dus.co.jp> <http://compamed.messe-dus.co.jp>

メッセ・デュッセルドルフ・グループが世界で開催するヘルスケア展、MEDICAlliance に関する今後の日程は、以下のウェブサイトからご覧いただけます。

<https://www.medicalliance.global>

株メッセ・デュッセルドルフ・ジャパン

担当：服部

〒104-0094 東京都千代田区紀尾井町 4-1 ニューオータニガーデンコート 7 F

Tel.03-5210-9951 Fax.03-5210-9959 / mdj@messe-dus.co.jp www.messe-dus.co.jp